

令和 8 年度 病害虫発生予察情報

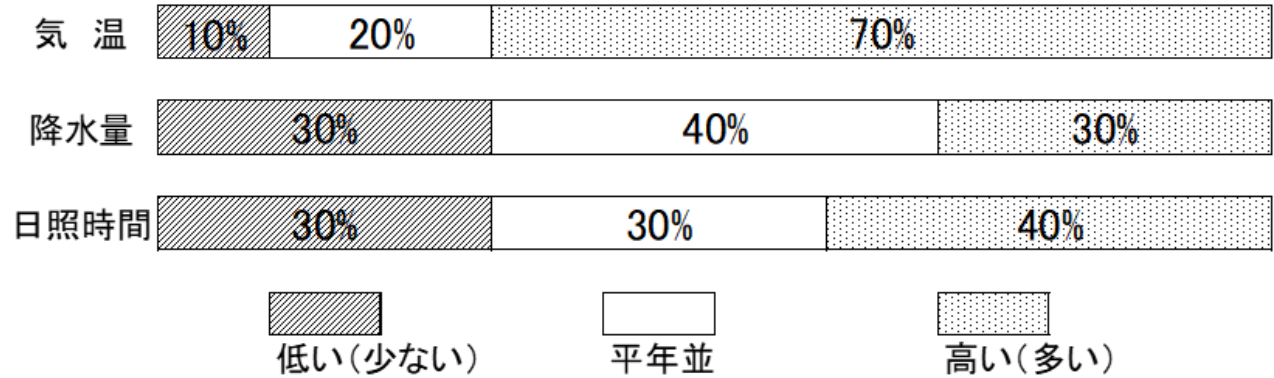
発生予報第 5 号（7 月下旬～8 月中旬）

令和 8 年 7 月 17 日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	葉いもち	やや多い
		穂いもち	やや多い
		紋枯病	平年並～やや多い
		白葉枯病	平年並
		縞葉枯病	平年並
		ヒメトビウンカ	平年並
		ニカメイチュウ	やや少ない
		ツマグロヨコバイ	平年並
		セジロウンカ	平年並
		トビイロウンカ	平年並
		コブノメイガ	やや多い
		斑点米カメムシ類	やや少ない～平年並
果樹	ナシ	黒斑病	平年並
		黒星病	平年並～やや多い
		シンクイムシ類	やや多い
		ハダニ類	平年並
		アブラムシ類	やや少ない
	カキ	うどんこ病	平年並
		チャノキアザミウマ	平年並
		カメムシ類	やや多い
	果樹全般		

中国地方1か月予報(7月18日～8月17日・広島地方气象台7月16日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



- A. 普通作物
 1) イネ
 (1) 葉いもち
 予報内容
 発生地方
 発生時期
 発生量

県内全域
 平年並
 やや多い

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査（70ほ場）では、発生ほ場率が10.0%（平年5.4%）、発病株率が2.1%（平年2.0%）と、発生量は平年に比べてやや多い。
- ② 7月1～6日を中心に県内各地で感染好適日が出現しており、出現回数は平年に比べてやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

（2）穂いもち

予報内容

発生地方	県内全域
発生量	やや多い

予報の根拠

- ① 伝染源となる葉いもちの発生量はやや多いと予想される。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

（3）紋枯病

予報内容

発生地方	県内全域
発生時期	平年並
発生量	平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査（70ほ場）では、発生ほ場率が7.1%（平年6.9%）、発病株率が0.3%（平年0.6%）と、発生量は平年並みである。
- ② 7月7日に本田での初発生を認めた。
- ③ 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

（4）白葉枯病

予報内容

発生地方	県内常習発生地帯
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では発生を認めていない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

（5）縞葉枯病

予報内容

発生地方	県内全域
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 媒介虫のヒメトビウンカの発生量は平年並みと予想される。
- ② 4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%（平年0.9%）と低い。
- ③ 県内の一部で発生が確認されている。

（6）ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方	県内全域
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬に実施した巡回調査の結果、発生ほ場率が31.1%（平年55.3%）、捕獲数が6.4頭/50株（平年10.2頭/50株）と、本種の発生量は平年並みである。
- ② 7月第2半句までに予察灯（出雲市）で1頭（平年0.6頭）、ネットトラップ（出雲市）で1頭（平年2.5頭）の誘殺が確認されており、誘殺数は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

（7）ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容

発生地方	県内全域
------	------

発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月中旬に実施した巡回調査の結果、本種によるイネの被害株率は0%（平成0.3%）と、平成並みである。
- ② 7月第2半旬までの予察灯における誘殺数は13頭（平成74.4頭）、フェロモントラップにおける誘殺数は15頭（平成96.6頭）と、平成よりやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(8) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平成並

予報の根拠

- ① 7月中旬に実施した巡回調査の結果、発生ほ場率は28.9%（平成36.1%）、捕獲数は3.1頭/50株（平成5.4頭/50株）と、本種の発生量は平成並みである。
- ② 7月第2半旬までの予察灯（出雲市）における誘殺数は1頭（平成25.7頭）と、少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(9) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平成並

予報の根拠

- ① 7月中旬に実施した巡回調査の結果、発生ほ場率が33.3%（平成61.2%）、捕獲数が10.0頭/50株（平成51.2頭/50株）と、本種の発生量は平成並みである。
- ② 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）において8頭（平成15.2頭）、粘着誘殺灯（出雲市）で2頭（平成14.4頭）が誘殺された。ネットトラップ（出雲市）（平成3.0頭）においては本種の誘殺を認めておらず、誘殺数は平成並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平成並

予報の根拠

- ① 7月中旬に実施した巡回調査の結果、発生ほ場率は2.2%（平成5.2%）、捕獲数は0.04頭/50株（平成1.2頭/50株）と、本種の発生量は平成並みである。
- ② 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）、粘着板（出雲市）、ネットトラップ（出雲市）では本種の誘殺を認めていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 7月中旬に実施した巡回調査の結果、被害株率が2.1%（平成2.1%）、発生ほ場率は26.7%（平成8.2%）と、本種の発生量は平成に比べてやや多い。
- ② 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）及びネットトラップ（出雲市）では本種の誘殺を認めていないものの、粘着板誘殺灯（出雲市）においては2頭（平成0頭）が誘殺されており、誘殺数は平成に比べてやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

注）令和8年度 病虫害発生予察情報 技術情報 第6号参照

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない～平年並
予報の根拠

- ① 7月中旬に実施した極早生ほ場でのすくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は20.0%（平年78.1%）、平均捕獲虫数は0.47頭/20回振り（平年10.4頭/20回振り）と、斑点米カメムシ類の発生量は平年に比べて少ない。主要種はアカスジカスミカメである。
 - ② イネカメムシの発生ほ場率は13.3%、平均捕獲虫数は0.13頭/20回振りであった。また、一部のほ場において、出穂前にも関わらず払い落としによってイネカメムシが捕獲された。
 - ③ 6月下旬に実施したほ場周辺雑草地でのすくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は84.0%（平年74.5%）、捕獲頭数は20.8頭/20回振り（平年14.2頭/20回振り）と、斑点米カメムシ類の発生量は平年に比べてやや多い。
 - ④ 7月第2半旬までの予察灯（出雲市）における斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメ）の合計誘殺数は101頭（平年126.6頭）と平年並みである。
 - ⑤ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。
- 注）令和8年度 病虫害発生予察情報 技術情報 第5号参照

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率6.9%（平年5.9%）と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率2.4%（平年0.7%）と、発生量は平年に比べてやや多い。また、一部で極めて発病葉率の高いほ場を確認した。
 - ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。
- 注）令和8年度 病虫害発生予察情報 技術情報 第3号参照

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップ（出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平年並み、誘殺数は平年よりやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

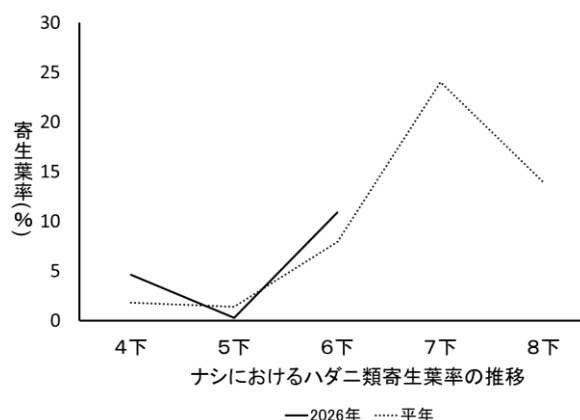
(4) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、寄生葉率10.9%（平年7.9%）、寄生虫数18.9頭/50葉（平年15.2頭）と平年並みである（右図参照）。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。



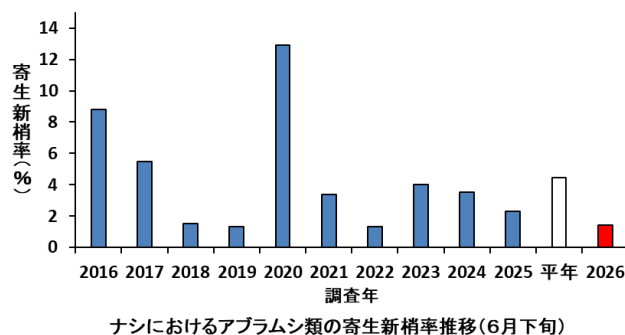
(5) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、寄生新梢率 1.4% (平年 4.5%)、寄生度 0.5 (平年 2.0) と平年に比べてやや少ない (右図参照)。
- ② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発生を認めていない (平年の発病葉率は 0.1%)。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 露地ほ場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

3) 果樹全般 (カキ、ブドウ、ナシ等)

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域 (特にナシ無袋、カキ栽培地帯)
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 7月第3半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は2479頭 (平年 1348.6頭) とやや多い。
 - ② 6月下旬の巡回調査では被害果率 0.3% (平年 0.3%) と平年並み。
 - ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。
- 注) 令和8年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第4号参照

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページに、農薬登録情報提供システムが掲載されています。
(URL <https://pesticide.maff.go.jp/>)

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp